

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	共和病院新館	階数	地下1階・地上6階
建設地	愛知県大府市	構造	S造
用途地域	準工業地域、法第22条区域	平均居住人員	360 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2016年11月2日
敷地面積	4,560 m <sup>2</sup>	作成者	北川国彦
建築面積	1,776 m <sup>2</sup>	確認日	2016年12月22日
延床面積	8,279 m <sup>2</sup>	確認者	桂川佳裕



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準計算: 30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆ 100%☆☆ 100%超:☆☆

標準計算: ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** **Q のスコア = 3.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

**LR 環境負荷低減性** **LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>15.3 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	15.3 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	15.3 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$  × 100

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$  × 100

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音			3.0	0.15	2.8	1.00		2.9
1.2 遮音			3.0	0.40	3.0	0.40		
1 開口部遮音性能			3.0	0.40	2.6	0.40		
2 界壁遮音性能			3.0	0.40	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	0.60	3.0	0.30		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-	3.0	0.20		
1.3 吸音			3.0	0.20	1.0	0.20		
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御			3.0	0.35	3.0	1.00		3.0
1 室温			3.0	0.50	3.0	0.50		
2 外皮性能			3.0	0.38	3.0	0.57		
3 ソーン別制御性			3.0	0.25	3.0	0.43		
2.2 湿度制御			3.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式			3.0	0.30	3.0	0.30		
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用			3.0	0.25	3.5	1.00		3.0
1 昼光率			3.0	0.30	3.0	0.30		
2 方位別開口			3.0	0.60	3.0	0.60		
3 昼光利用設備			3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策			3.0	0.30	3.0	0.30		
1 昼光制御			3.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度			3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御		ベッド単位で照明制御可能	3.0	0.25	5.0	0.25		
<b>4 空気環境</b>								
4.1 発生源対策			4.4	0.25	4.2	1.00		4.3
1 化学汚染物質		すべてF☆☆☆☆以上で化学汚染物質の少ない建材を全面的に	5.0	0.50	5.0	0.63		
4.2 換気			3.0	1.00	5.0	1.00		
1 換気量			3.0	0.30	3.0	0.38		
2 自然換気性能			3.0	0.50	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理			5.0	0.20	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視			3.0	-	-	-		
2 喫煙の制御		敷地内は全面禁煙としている	5.0	1.00	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>								
1 広さ・収納性			4.0	0.40	3.6	1.00		3.9
2 高度情報通信設備対応			3.0	0.40	3.0	0.60		
3 バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性	独自		5.0	0.30	4.5	0.40		
1 広さ感・景観		宿泊部分の天井高2.5m以上	3.0	-	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-	-		
3 内装計画		病院に求められる機能を考慮した内装、	5.0	1.00	5.0	0.50		
1.3 維持管理			4.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		耐久性・メンテナンス性に考慮した内外装材料を選定	4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		清掃などの衛生面や十分な大きさの点検口等維持管理に配慮し	5.0	0.50	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
<b>2.1 耐震・免震</b>								
1 耐震性			3.0	0.31	-	-		3.0
2 免震・制振性能			3.0	0.48	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.80	-	-		
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		3.3	0.33	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.23	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.09	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		厨房排気ダクトはステンレス、屋外露出はガルバリウム鋼板	5.0	0.08	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		排水管VP(B)、給水管VLP(B)、管端コアねじ(E)	4.0	0.15	-	-		
2.4 信頼性			3.0	0.23	-	-		
1 空調・換気設備			2.8	0.19	-	-		
2 給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-		
3 電気設備	②		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備			2.0	0.20	-	-		
<b>3 対応性・更新性</b>								
<b>3.1 空間のゆとり</b>								
1 階高のゆとり			2.8	0.29	3.0	1.00		2.8
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.31	3.0	0.50		
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.60	3.0	0.60		
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	3.0	0.40		
1 空調配管の更新性	②		3.0	0.31	3.0	0.50		
2 給排水管の更新性			2.6	0.38	-	-		
3 電気配線の更新性			1.0	0.17	-	-		
4 通信配線の更新性			3.0	0.17	-	-		
5 設備機器の更新性			3.0	0.11	-	-		
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.22	-	-		

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
		<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30	-
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40		-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-	3.4
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI <sub>m</sub> =0.84		4.0	0.30		-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20		-	3.0
3 設備システムの高効率化				4.0	0.30		-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI=0.90		4.0	1.00		-	
集合住宅の評価(3c)							-	
<b>4 効率的運用</b>				3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50		-	
集合住宅の評価							-	
4.1 モニタリング							-	
4.2 運用管理体制							-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-	3.6
<b>1 水資源保護</b>				3.4	0.15		-	3.4
1.1 節水		節水コマと省水型器具		4.0	0.40		-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>				3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				3.7	0.63		-	3.7
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	地下柱・梁とスラブ内部の鉄筋及び地上鉄骨小梁にリサイクル資		5.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	合成木材、再生岩綿吸音板、再生石膏ボード、木質繊維版、パー		5.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	0.24		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				3.3	0.22		-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		対象物質を含有しない建材1種(壁塗装)		4.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68		-	
1 消火剤				-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50		-	
3 冷媒				3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	-	2.9
<b>1 地球温暖化への配慮</b>				3.3	0.33		-	3.3
1 ライフサイクルCO2概算値:92%	①						-	
<b>2 地域環境への配慮</b>				2.5	0.33		-	2.5
<b>2.1 大気汚染防止</b>				3.0	0.25		-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>				2.0	0.50		-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>				3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制	独自			3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制				3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				3.1	0.33		-	3.1
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				3.0	0.40		-	
1 騒音	独自			3.0	1.00		-	
2 振動	独自			-	-		-	
3 悪臭				-	-		-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>				3.0	0.40		-	
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制							-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-	
<b>3.3 光害の抑制</b>				3.7	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のガラス面に覆れる光への対策		光害対策への取り組み一部実施		4.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.3</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.3</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:15.34%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 病院施設として十分な耐震性、耐久性を確保。庇・ルーバー・高遮熱ガラスを採用して日射負荷の抑制を図る。設備は2種類の空調熱源と個別分散機器の採用により効率化と冗長性、更新容易性を図っている。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 庇・ルーバーによるグレアの抑制、方位別・用途別のエアコンゾーニングによる異なる室内条件への対応。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 耐久性・メンテナンス性に考慮した内外装材料を選定。節水器具・井水利用による省エネとガス空調併用によるバックアップの配慮。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 地域貢献に配慮した敷地計画
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 高効率熱源、高効率照明器具の採用による省エネの配慮。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水器具の採用。リサイクル材の採用。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 周辺道路の渋滞を緩和する敷地内道路計画。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。